

学校ホームページのQ&A

学校見学会などで質問の多かったものをまとめてあります。

科技高の【特徴】について

・科学技術科と創造理数科、どう違うの？

→一番の違いは、各学年で学習する教科・科目の内容です。創造理数科では、3年間を通して、普通高校で学年進行で学ぶ理科や数学科の枠を超えた内容（普通高校では2年や3年で学ぶ内容を1年で学ぶなど）を取り扱うことで、理数科目への理解を深める工夫がされています。1年生で12時間、2年生で14時間、3年生で10時間が創造理数科の理数科目となります。また、3年間を通して、理科3科目（物理、化学、生物）を選択ではなく全ての生徒が学ぶのも特徴です。

科学技術科では、3年間普通教科の他に「科学技術実習」「科学技術理論」「工業技術基礎」などの実践的な「科学技術に関する科目」を学びます。1年生で週7時間、2年生で週8時間、3年生で週5時間が科学技術科の専門科目の勉強になります。

・理科や実習が好きな場合、科学技術科と、創造理数科のどちらが向いてる？

→理科の実験や、実習が好きな場合は、科学技術科が向いています。科学技術科では、1年生から毎週1回3時間続きの実験や実習があります。また、2年では毎週1回3時間続きの実験実習の他に、課題研究という研究の時間が週1回3時間設定されています。創造理数科では、理科の理論を、幅広くかつ深く学ぶ中で、必要な実験も行うカリキュラムになっています。毎週決まった実験があるわけではありませんが、理論を確かめるための実験が、物理、化学、生物合わせて各学期5～8回程度、授業時間内で行われます。

・科学技術高校と、高専って、どう違うの？

→まず、教育期間の違いがあります。高専は5年一貫教育のため長期で専門を学ぶカリキュラムです。次に、学ぶ内容ですが、基本的には、工学に関して深く学びます。これに対して、科学技術高校は3年制で、短期で工学、理科、数学などの基礎から応用を学びつつ、理数系に関する幅広い進路を選べるところが特徴です。また、卒業後の進路にも違いがあります。高専では、卒業と同時に準学士を取得することができ、大学3年次に編入することもできます。技術職の就職に強いいため進路は専門技術職へ直結しています。これに対して、科学技術高校では、理数に特化した理学的分野、機械制御・電子情報技術・バイオ化学などの科学技術・工学的分野といった、幅広く基礎技術を学び、資格取得の機会も多いことが特徴です。進路は4年制大学が主ですが、専門に進む生徒もいます。い先の学部は、工学、理学、数学、農学、薬学など幅広く選択可能です。

・科学技術高校と、普通高校って、どう違うの？

→創造理数科も、科学技術科も、普通科の学校にはない科目を学びます。「科学技術科と創造理数科の違い」にも書きましたが、創造理数科では、物理化学生物をそれぞれ3年間全員が学習します。科学技術科では、科学技術に関する実践的な科目を学びます。

・科学技術高校と、工科高校って、どう違うの？

→卒業後の進路と、それに向けた学習カリキュラムに大きな違いがあります。工科高校は、いわゆる工業高校です。ものづくりの技術者を育成するカリキュラムがメインで、進路先は主に就職になります。一部、大学に進学する生徒や、専門学校に進む生徒もいます。これに対して、科学技術高校は、ものづくりや技術を学びつつ、4年制大学に進学し、科学者や研究者となる人材を育成するカリキュラムがメインで、進路先は主に4年制大学になります。一部、専門学校に進む生徒もいますが、就職する生徒はほとんどいません。

→創造理数科は、科学技術以上に4年制大学への進学を重視したカリキュラムになっています。（2026年度現在創造理数科はまだ卒業生がいないためここに載せる進路情報がありません）

・科学技術高校と、多摩科学技術高校って、どう違うの？

→科学技術高校は、2001年に、都立高校で初めての科学技術科を設置する専門高校として開校し、2007年からSSHの指定を受けて研究を継続してきています。これに対して、多摩科学技術高校は2010年に開校しました。

・他の理系高校との違いは何ですか？

→他の「理系に強い」普通高校との大きな違いは、本校が「科学技術科」の専門高校である点です。科学技術高校の基となった工業高校から受け継がれたカリキュラムと人材、SSH指定校としての取り組みや工科系カリキュラムの強みを生かした施設設備が充実していることです。「理系に強い」普通高校では、理科室はあるものの、専門的な実験設備は充実しているとは言えません。これに対して、科学技術高校では、大学の研究室に設置されているような分析機器や、機材が多数設置されており、専門的な実習施設や実験室が、理科室とは別に多数あり、生徒たちの研究を助けています。

・科学技術科のSS特進クラスって、ほかのクラスとどう違うの？ どうやって決めるのですか？

→新入生の特進クラスは、入学試験の成績優秀者から決定します。入学後は、学年が変わる際に生徒の希望を取り、希望者が多い場合は、成績により決定しています。特進クラスは、高い向学心や研究心、大学進学への高い希望を持った仲間が集まっていますが、特進クラス以外でも、そのような意識の高い生徒はいます。科技高生はみな、研究や実習への熱意を持ち、日々の学校生活を送っています。

科技高での【研究】について

・宇宙に関する研究活動はありますか？

→科学研究部の数学物理班で、電波天文学に取り組んでいたり、創造理数科での探究で取り組んでいたりする生徒がいます。

・創造理数科では、研究で科学技術科の施設は使えないのですか？

→実験の計画を立てて申請することで、創造理数科でも科学技術科の施設を利用することができます。

・普通教科の勉強と、研究活動って、両立できるか心配です。

→科学技術高校では、全員が研究活動を行っています。そのため生徒たちが研究をしやすい環境が整っています。研究活動では、定期考査はなく、研究ノートや研究報告書の提出で成績が付くようになっています。日々の研究をきちんと記録していけば、難しいことはありません。研究の指導担当教員もいつでも相談に乗りますので安心してください。

科技高での【授業・実習】について

・専門的な内容の授業はどのくらいありますか？

→以下のリンクから、本校のカリキュラム（教育課程）をご覧ください。色が変わっている部分が、専門的な授業になります。また、よくわからない場合は、ぜひ直接学校見学会や説明会にご参加ください。

・理科の授業でどのくらい実験をしますか？

→学年や授業で異なりますが、1学年では毎学期物理1回、化学1回、生物2回程度行います。また、科学技術科では、理科とは別に、「科学技術実習」の中で、毎週1回3時間の実験や実習が1年を通して学べます。

・レポートって、大変じゃないですか？

→簡単なわけではありませんが、科技高生のみんなが取り組んで、提出できるような内容になっています。また、もしわから

ない場合は、友達同士で教えあったり、指導担当の先生に質問したりして、みんなレポートを提出できていますので、安心してください。

・普通教科では、どんな課題や宿題が出ますか？(特に1年生)

→英語では、教科書の内容の書き写しやワークブックのコピー(A3用紙1枚)に解答する宿題が週2回程度あったり、物理ではテスト前にまとめてワーク(10~20ページ程度)の提出があったり、化学では毎週内容確認のためのチェック問題が5~10問程度出たりします。宿題の量や内容は、担当教員により異なる部分もありますが、生徒が自宅学習の習慣がつくように配慮して出されています。

・夏休みや冬休みに、どんな宿題が出ますか？

→学期中にみなさんの理解が不十分であった箇所を補ったり、より一層理解を深めたりするために、問題集やプリントなどの課題が出されます。

・探究って、どんな授業ですか？

→**創造理数探究**：探究は科学的な思考プロセスを体系的に習得する授業です。創造理数探究基礎では、1年では探究活動に必要な疑問のを見つけ方、データのとり方、質疑応答の仕方等の様々な力を養います。1年の探究発表会に向けて東京大学生産技術研究所と連携した研究テーマ設定のワークショップを実施しますので、何を研究しようか悩んでいる人も研究に着手することができます。2年からは深く広く学んだ物理・化学・生物・数学・情報の知識を用い、自分の興味・関心に応じて仮説を立て、それを検証する研究活動に取り組みます。

→**科学技術探究**：身の回りのことから自分なりの疑問を見つけたり、身の回りの物を、普段見ないような視点でよく観察したりして、研究する上で大切な基礎的な視点や姿勢を学んでいきます。授業は、グループワークが中心で、毎回いろいろな人と班を組み、話し合ったり、意見を出し合ったりして、お互いの視点や考えを深めていきます。グループワークの区切りでは、全体の前での発表体験も複数回行われ、1年の最後には探究発表会で一人ずつ発表も行います。2年からは、自分が選んだ分野に分かれ、探究から「課題研究」と教科名が変わって、自分が興味を持った実験やモノづくり、開発に関する研究を行っていきます。

・科学技術科の研究と創造理数科の研究はどう違うの？

→科学技術科の研究は、主に、科学(理学)や技術(工学)に関する内容になっています。創造理数科の研究は、もう少し幅広く、自然、人、物、社会、など私たちの身の回りのすべてに及びます。

・勉強が遅れた生徒に対する補習はありますか？

→平常授業時の日常的な決まった補習はありませんが、教科の先生にはいつでも自由に質問ができます。また、個別に勉強を教わることもできます。期末考査前や終了後に特定の教科の補習が行われることもあります。

・2年に上がるときの分野選択は、必ず希望の分野に入れますか？

→分野選択では、100%本人の希望通りの分野となります。このため、学年によって、分野の人数が異なります。

・土曜講習とはどのようなものですか？

→一年間で10回程度、土曜日に実施される希望者対象の講習会です。主に以下のような科目があります。英検対策講座は、全学年の生徒が受講できます。

1年国語(古典)、1年数学、2年数学、2年理科(物理・化学・生物)、3年国語(古典)、3年数学、3年社会(地理) 3年

理科（物理・化学・生物）、英検対策（準2級）、英検対策（2級）

・英語を伸ばしたい生徒へのサポートはありますか？

一朝学習を実施し、基礎的な英語力をサポートしている他、自由参加の土曜講習に英検の対策講座を設けています。また、JET（Japanese Teacher of English）の先生による放課後気軽に参加できる英会話講座や、英検二次のスピーキングの個別指導を英語科教員とJETで行っています。

科技高での【進路指導】について

・3年間で、どんな進路指導が行われていますか？

一既に具体的な目標をもって科学技術高校に入学する人も多くいますが、1年時には普通教科と同時に、科学技術全般に関する基礎的な学習を網羅して、生徒一人一人が興味関心のある分野を絞り込んでいきます。また担任の先生との面接や、進路指導部の様々なガイダンスを通してみなさんをフォローしています。2年生以降は、共通テストや一般入試、総合選抜入試や学校推薦型入試に備えた最新の情報を進路指導部や担任の先生を通して提供し、進路相談を繰り返しながらみなさんの目指すべき大学・学部や、受験パターンに応じた進路希望先をさらに絞り込みます。3年生になると、研究成果をアピールして総合型選抜入試や学校推薦型入試にチャレンジする生徒には、それぞれ専門の先生がついて直接指導をしています。また放課後補講や長期休暇中の講習、土曜講習を通して、共通テストや一般入試に向けた対策も実施しています。学校をあげてみなさんの進路活動をバックアップしています。

・卒業後は、どんな進路に進んでいますか？

→以下のリンクより、卒業生の進路状況の資料をご覧ください。

https://www.metro.ed.jp/kagakugi_jyutu-h/career/course.html

・創造理数科は、どんな進路をめざしているのか？

→創造理数科は、現在1期生が3年となり、大学受験に向けて自分の進路を考えています。創造理数科では、一般受検を中心に4年制大学の上位校への入学を目指しています。創造理数科の進学先は、理系を中心に、経済系、医学・薬学系、文学・人文系など幅広くなることが予想されます。

・海外の大学への進学者はいますか？

→ごく少数ですが、海外の大学に進学した卒業生もいます。ここ数年では、中国吉林大学に進学した生徒がいました。現在は無事に卒業して社会の第一線で活躍していますが、希望する大学の母国語に堪能でないと、とても研究・学習についていけないそうです。日本の多くの大学では、海外提携大学があり、授業料免除で留学できる制度もありますので、大学進学後に留学するという選択肢もあります。

・動物に興味があり、動物に関する学科に進みたいのですが

→専門学校である山崎学園の動物看護や、日本大学の生物資源、農業系大学、日本獣医生命科学大学など、動物に関係する進路を選択する生徒も複数います。

・科学技術高校では、どのような資格が取得できますか？

→普段の授業内で全員が取得できる資格の他、資格の取得について様々な資格取得を紹介しています。資格試験前には、希望者に対して資格取得の対策講座も実施しています。

誰でも挑戦できる資格：バイオ技術者認定試験、危険物取扱者（乙種）

科技高の分野独自の資格：

【1分野】計算技術検定（授業内で全員取得）、基礎製図検定（選択授業内で全員取得）、金属アーク溶接作業主任者限定技能講習（国家資格）、有機溶剤作業主任者技能講習（国家資格）、グラインダー特別教育（労働安全衛生法に基づく資格）

【2分野】ITパスポート、基本情報技術者試験（国家試験）、第2種電気工事士（国家資格）

【3分野】バイオ技術者認定試験、エコ検定

また、普通高校と同様に、実用英語技能検定（英検）なども取得を推奨しています。

科技高での【生活】について

・学校は何時から始まりますか？放課後は何時に下校ですか？

→平常授業では、8時35分より、各クラスにてショートホームルームが行われます。本校は45分授業1日7時間授業のため、3時30分に7時間目が終了します。その後帰りのホームルームがあり、放課後となります。通常は、4時50分が部活動の活動終了時刻となります。顧問と生活指導部の許可がある部活は、6時まで延長で活動ができます。

・学食はありますか？

→学食はありませんが、昼休みに購買がオープンします。パンが中心ですが、焼きそばや、親子丼、おにぎり、日替わり弁当やカレーなどもあります。生徒が購入しやすい価格設定となっており、当日朝の予約販売を基本とした販売となっています。（予約なしで買えるものも若干用意されています）。また、飲料の自動販売機があり、缶ジュースやペットボトルなど、休み時間に自由に購入できます。

・生徒の通学範囲はどのくらいですか？自転車通学は可能ですか？

→都立の科学技術科のある高校は、本校と多摩科学技術高校だけであるため、都内の全域から生徒が通ってきていますが、比較的近隣の区からの通学者が多くなっています。自転車通学は許可制となっており、ヘルメットを着用し、交通ルールを守って登校してもらっています。

・クラス分けはどのように行われますか？

→創造理数科は、1クラス編成なので、3年間クラス替えがありません。科学技術科は5クラスのうち1クラスが「特進」クラスとなっていて、本人の希望と成績により、2年進級時と3年進級時にクラス編成を行っています。残りの科学技術科のクラスでは、3つの分野の生徒の人数のバランスを取りながら4クラスに分けています。

・科学技術科の、分野選択の時期はいつですか？

→1年生は、工業技術基礎という実習科目で、1分野、2分野、3分野のすべての実習を入門的に体験したのち、2学期の後半に分野選択の希望を出します。科学技術科の分野選択は、コースではないので、すべての生徒が、第一希望の分野に進級することができます。

・生徒の男女の割合は、どのくらいですか？

→科技高では、男女別の定員を設定していないので、男女の数は毎年変動しますが、科学技術科35名中、女子は10名前後、創造理数科40名のうち、女子は6から10名程度となっています。

・スマートフォンの使用ルールはどのようなものですか？

→学校への持ち込みは許可されていますが、「授業中は電源を切る」などのルールがあります。また、定期考査中は「電源を切ってカバンの中にしまう」というルールがあります。

・学習に使うタブレットはどのように購入すればよいのですか？

→タブレットは、東京都から購入を指定された物品のため、合格者に対して入学前に全員に購入のご案内をさせていただいております。個人で購入していただく必要はありません。

・入学後に不安なことがあったら、相談に乗ってもらえますか？

→クラス担任に限らず、科学技術高校の先生は皆、とても親身に皆さんの話を聞いてくれます。入学後、話しやすいなと思った先生に、いつでも相談できます。また、週2回スクールカウンセラーも常駐していますので、気軽に利用してください。

・留年や退学をする人はいますか？

→留学する人も、退学する人も、若干名います。退学する人は、科学技術科の勉強が自分に合わず、他の学校に転入する人です。実際に学んでみて自分にどうしても合わないと思ったときは、皆さんの新しい進路に向けた相談にも乗っています。

・どんな雰囲気 학교ですか？

→落ち着いた雰囲気の学校です。また、先生との距離が近く、親しみやすい雰囲気の学校です。親しき中にも礼儀があり、廊下では、生徒と先生の挨拶の声がよく聞こえます。研究や実験、ものづくりなど、一つのことに熱中するタイプの生徒が多く、同じ趣味の仲間を見つけやすい環境です。様々なことに興味関心がある生徒がいる環境で、お互いに認め合い、楽しく学校生活を送っています。

・髪型についての校則はありますか？

→髪型についての校則はありません。しかし、実験や実習の際、長い髪が機械に巻き込まれたり、薬品や炎がついたりするなどの危険があるため、男女問わず髪の毛が長い場合は、ゴムなどで縛って授業や実習をしてもらっています。また、外部への発表会に参加する際は、相手に不快感を与えない身だしなみを指導しています。

科技高の【行事】について

・修学旅行はどこに行きますか？

→修学旅行先は、固定ではなく、学年ごとに決定されます。行先は学年ごとですが、基本的に国内修学旅行となります。

・フィールドワークとはどんな活動ですか？

→教室を飛び出し、海や川、森の中を訪れ、その中で自然に触れながら、自然科学の不思議を体験する活動です。本校では動物や植物が好きな生徒が楽しく真剣に自然の中で探究活動を行っています。

・見学可能な学校行事はありますか？

→見学可能な行事は、文化祭(四葉祭)です。毎年9月の中旬に2日間実施されますので、ぜひ本校ホームページでチェックして遊びに来てください。楽しい体験や実験、ものづくりの企画がたくさんあり、1日では遊びきれないくらいの盛りだくさんな文化祭です。また、1年生の探究発表会、2年生の探究・課題研究合同発表会、3年生の卒業研究発表会も見学可能です。詳細はHPに掲載しますので、ぜひご来校ください。

科技高の【入試】について

・推薦入試のことを詳しく知りたいです。

・理数等特別推薦での「科学分野等の研究」とは、具体的にどんなものですか。

・併願の仕組みを教えてください。

→都立高校の入試情報については、10月以降に東京都のホームページで公開されるほか、本校でも10月以降の学校説明会にて、詳細をお伝えしています。東京都の規定により、10月までは、入試に関する情報は、残念ながらお伝えすることができません。前年度の入試情報を参考にさせていただくことはできますが、あくまでも、受検される年度の情報は、中学3年生の10月解禁となっておりますので、ご了承ください。ぜひ、学校説明会にご参加ください。詳しい入試資料を差し上げております。ご自身が受験する入試に関する最新情報は、中学3年の10月以降に実施される学校説明会にお越しいただき、説明会場でお聞きください。

・内申点や入試での得点がどのくらいだと入学できますか？

→内申点や、入試の得点ラインについては、申し訳ありませんがお答えできません。入試を受ける生徒は毎年変わるため、はっきりしたことが言えないということです。ご自身で受けられた模擬試験の判定を参考にしつつ、十分な勉強と準備をして受験に臨まれることが第一だと思います。

・受験日当日、列車などが遅延した場合はどうすればよいですか？

→多くの人が遅延の影響を受けるような、大規模遅延の場合は、東京都から、試験開始時刻の変更の指示が出されるため、そちらに従うことになります。バスの遅延を含む個人的な遅延については、登校後の残余の時間で受験をしていただくことになります。バスをご利用の場合は、遅延を見込んだ十分余裕のある時間で試験会場に向かわれることをお勧めします。

・受験に向けて準備すべきことはありますか？

→一般入試に向けた準備は、普通科の受験対策と同じです。5科目の基礎を固めて、しっかり勉強してください。推薦入試に関する準備につきましては、東京都の規定により、10月以降の学校説明会にてご説明させていただいております。

・入学後に、科を移ることはできますか？

→残念ながら、入学後の転科の制度はございません。個別相談等で十分検討して受験学科をお決めください。

・入学後に、高専に編入することはできますか？

→高専で補欠募集があり、編入試験に合格できれば、編入は可能ですが、高専で欠員が出ていない場合は受験できません。

・入学後塾に行ったほうが良いですか？

→入学後に塾に通う生徒は一定数いますが、塾に通っていない生徒も多数います。まずは入学して、授業を受けてみて、必要と感じた場合通えばよいかと思います。

・数学が好きですが、理科は普通です。入学しても大丈夫ですか？

→理科が嫌いであれば、全く問題ありません。本校の理科教諭は、みな、楽しく面白く理科を教えるエキスパートです。きっと、入学したら、理科は普通から、理科大好きになってもらえると思います。

・合格した後に、入学までにしておいたほうが良いことはありますか？

→推薦で合格した場合は、一般入試でも合格できるように自分の苦手科目をしっかり勉強してください。高校入学後に、一般入試で入ってきた人のほうが、推薦の人よりも成績が伸びることがあります。これは、最後まで勉強して受験した結果だと思われます。特に、苦手科目は避けがちですが、中学での内容は高校での勉強の土台となります。土台がぐらぐらでは、上の勉強を積み上げることはできません。ぜひ、入学までに苦手科目をしっかり復習して、身につけてから入学してください。

・兼部はできますか？

→一部活動によって、兼部できるものもありますし、兼部できないものもあります。事前に知りたい場合は、部活動顧問宛に本校までお問い合わせください。

・どんな部活動がありますか？

→以下のリンクより、部活動に関するページをご参照ください。

https://www.metro.ed.jp/kagakugijyutu-h/school_life/activities.html

・部活動の加入率はどのくらいですか？

→1年生の部活動加入率は例年8割程度です。

・どのような課外活動に参加していますか？

→「都立高校生 Global Challenge (TGC)」や「次世代リーダー育成道場」に応募して海外留学をする生徒や、海岸清掃ボランティアに参加する生徒などの他、企業や大学が主催し、一般公募される外部の研究発表会に参加する生徒もいます。

他の理系高校 の資料

1. 東京サイエンスハイスクールは、都立高等学校及び都立中等教育学校の生徒の理数分野等の興味・関心を更に向上させ、Society 5.0に対応し、変化の激しい現代社会で活躍するとともに、国際競争に勝ち抜くことができる人材の育成を推進します。

都立白鷗高等学校 都立武蔵高等学校 都立国立高等学校 令和6年4月1日から令和9年3月31日まで

2. 令和7年度指定校 (24校)

理数に興味・関心をもつ生徒の裾野を拡大するとともに、優れた資質・能力をもつ生徒の発掘とその才能を伸ばすため理数研究校を24校指定し、東京都の理数教育の更なる充実を図ります。

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

都立竹早高等学校	都立六本木高等学校	都立上野高等学校
都立八潮高等学校	都立小松川高等学校	都立西高等学校
都立小笠原高等学校	都立狛江高等学校	都立田園調布高等学校
都立桜修館中等教育学校	都立駒場高等学校	都立目黒高等学校
都立雪谷高等学校	都立深沢高等学校	都立北園高等学校
都立石神井高等学校	都立大泉高等学校	都立成瀬高等学校
都立府中東高等学校	都立立川国際中等教育学校	都立南平高等学校
都立武蔵野北高等学校	都立小金井北高等学校	都立多摩高等学校